

生徒の読書離れ・・・

3月5日（木）

公立高校学力検査まで1週間となりました。3年生はもう少しの間、集中して学習に取り組みましょう。春はここまで来ています。さて、生徒の読書時間の減少は顕著なものです。今の学生はどのような生活を送っているのでしょうか。数年前になりますが、大学生の態調査を発表しました。53.1%が1日の読書時間を「0分」と回答し、学生の読書離れの加速が浮き彫りとなりました。1日の読書時間の平均は23.6分（前年から0.8分減）と3年連続で減少しました。一方で、1日に120分以上と長時間読書する学生も存在しており、読む人の平均は51.1分と、前年度から2.5分長くなっています。「読む人」と「読まない人」の二極化が進んでいます。読書時間減少の原因として、スマートフォンの影響を挙げる声もありますが、ある調べによると「調査年ごとの読書・スマホ・勉強時間の推移を算出し、読書との関係の有無をみたところ、読書時間減少にはスマホ時間による直接的な強い効果はみられない（効果があるとしても極めて弱い）」ということです。では何が読書時間減少の大きな要因となっているのでしょうか。「14年を頂点として読書習慣のある学生は年々減ってきており、1年ごとに読まなくなってきたことが確認された」と分析し、高校生までの読書習慣が全体的に下がっていることが影響を与えているとしています。また、テレビを見ない学生にテレビを見せるとその面白さに気づいたという報告もあるそうです。読書も一緒に「読みなさい」と強制したからといって本を読むようになるものではありません。青垣中学校では8:10～8:20の毎朝10分間の朝読書を行っています。昼休みも図書室で自主的に本を読んでいる生徒もいます。若者が本を読まなくなった理由の分析がありました。1つ目は「活字を読み進めるのが苦痛で辛い」です。「読書をする意味が分からない」とも答えています。2つ目は「時間がもったいないから」です。「そんな時間をかける行為を、なぜしなくちゃいけないのかと。忙しくて本を読んでも場合じゃないです。」と回答した若者に「暇なときは何をしてるんですか?」と聞いたら、「ネット動画を見るか、ゲームをしていますね。」との答えが返ってきたそうです。他にも「楽しくない」や「書き手が知らない人だから」といった回答もあったようです。

